

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学び成長し、気持ちの良いあいさつができ、思いやりがある子ども

**堺市立大泉中学校
校長 忠見 亜由美**

令和7年度 重点目標 自分の言葉で自分の考えを伝えられる子の育成

1. 「自ら学ぶ子」「つくりだす子」「仲良くする子」◎ICTを活用しての一斉指導・個別最適な学び・協働的な学びをととして自ら学びを進められる子の育成 ◎前期・中期・後期を意識した子どもの育成 ◎「本物との出会い」をととしたキャリア教育の推進 ◎グリーンスクールプログラムをととした規範意識の向上 ◎カワセミはがきを活用した自尊感情の向上 ◎デジタル教材やNSを活用し、英語を話そうとする態度の育成

2. 「情熱」「指導力」「教育公務員としての自覚」◎大泉学園授業スタンダードの活用 ◎教科の専門性を活かし、児童生徒が主体的に学べる授業の推進 ◎教科の特性を活かし、9年間を見据えた指導 ◎妥当性・信頼性の高い学習評価・正確な進路対応 ◎コンプライアンスの遵守 ◎定時退勤日の遵守・時間外在校時間等時間の削減・ICTの活用による働き方改革

3. 「安心・安全」「チーム力」「未来をつくる」◎人権尊重の精神に立った教育活動 ◎個に応じた特別支援教育の充実 ◎「どの子にもわかる授業づくり」による居場所づくりや仲間づくり ◎いじめの未然防止・早期発見・早期解決 ◎危機管理体制の徹底 ◎児童生徒の健康管理の推進 ◎中学校給食モデル校としての実践 ◎学校・家庭・地域・関係機関とよりよい関係づくり

<p>「確かな学び」の現状</p> <p>昨年度の大阪府チャレンジテストでは、一昨年度に比べて上回る項目が多かった。朝学習や大泉検定・家庭学習による基礎基本の定着や、大泉スタンダードに基づいた思考力向上を目指した授業の成果が表れてきていると考えられる。今後も、基礎基本の徹底を継続しながら、協働的・対話的に学習を進めることで思考力を高めていきたい。一方、生徒アンケートで「難しいことがあってもあきらめない」の項目で、大阪府に比べ低い結果となった。引き続き、レジリエンス教育を推進していきたい。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状</p> <p>大阪版「いいとこみつけ」の取組「カワセミはがき」を活用した「グリーンスクール」の項目で肯定的回答が90%を超えている。また、はつらつカード等で基本的な生活習慣について考える取組を行っているものの、スマホの使用時間では未だに6割の生徒たちが2時間以上の使用時間であり、今後も継続して指導していく必要がある。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	思考力の育成	論理的な思考力の向上	★「思考力」の育成を軸とし、「大泉授業スタンダード」に基づき、指導法のさらなる工夫により、考える力の一層の育成をめざす。	「思考力」項目で肯定的回答80%以上 チャレンジテストの「思考・表現」問題で昨年度正答率を上回る。	学校評価アンケート(教員用) チャレンジテスト	1月	○	○	「子どもは、自分で考えたことを「思考力ファイブ」を意識して表現しようとしている」で肯定的回答が81.2%となった。チャレンジテストの思考・判断・表現の問題で、昨年度の正答率と比較して少し届かなかったが、学年は異なるものの、全体では上回ることができた。大阪府の平均との差でみると昨年度よりも良い成績を残すことができていた。自ら考える力を継続して伸ばしていけるようにしたい。	○ ○ ○ ○
		基礎基本の徹底と活用、家庭学習の定着	★朝学習・家庭学習を通して、漢字力や計算力、語彙力などの基礎学力の定着を図る。 ●HW(ホームワーク) 週間・各教科の学習計画の取り組みを実施し、家庭学習の習慣化を図る。	「家庭学習」の項目で肯定的回答70%以上	学校評価アンケート(生徒・保護者用)	1月	○	○	家庭学習の項目で肯定的回答は69.6%と少し届かなかったものの、「まったくあてはまらない」という回答は11%だったものが5.1%に減っており、効果はあったものと考えている。定期テストが学期ごとになり単元テストが入ったことで「学校での授業、提出物以外にも自分で勉強している。」の生徒質問では、よくあてはまるの回答が11.3%増加しており意識的に学習するようになってきている。	
	ICTの活用	★一人一台端末について、思考やコミュニケーションツールとしての効果的な活用を進める。	タブレットの使用に関する項目で肯定的回答が大阪府平均を上回る。	チャレンジテスト・全国学調の生徒質問	1月	○	◎	○	全国学調の「PC・タブレットなどのICT機器を用いる技能」に対する生徒質問への肯定的回答において、対府平均比が「文章を作成することができる」の項目で119%、「プレゼンテーションを作成することができる」の項目で123%と、府平均を大きく上回った。今後はこれらの技能を活かして、より思考や情報の整理に対しての活用を促進していきたい。	
	キャリア教育の充実	★ドリームファイルの活用を通して、「自分の夢や目標を明確にして、自らの行動を振り返り、実現に向けて努力できる子」の育成をめざす。	「自己実現」の項目で肯定的回答75%以上	学校評価アンケート(生徒用)	1月	○	○	○	9年生は進路学習で、8年生は職場体験学習で、7年生は職業講話でドリームファイルを活用した。	
豊かな心・健やかな体	豊かな心	互いに認め合える集団作り グリーンスクールの推進 自尊感情を高める	●★「カワセミはがき」を年間を通して活用し、「いいとこみつけ」に取り組んでいく。また、異学年交流や生徒会・学校行事等での子どもたちの活躍の場を通して自尊感情を育てていく。	「グリーンスクール」の項目で肯定的回答90%以上 「自尊心」の項目で肯定的回答85%以上	学校評価アンケート(生徒用)	1月	○	○	文化発表会等の学校行事を中心に「カワセミはがき」での交流を行い、子どもたちの自尊感情を高める活動を行っている。また、多くの異学年交流も行っている。	○ ◎ ○
		人権・道徳教育の充実	★全学年で道徳の公開授業を行い、人権学習も学年の垣根を越えて行う。日々の道徳の授業を通して自他の立場を尊重し合い、よりよい人間関係を構築していく感性を育てていく。また、全職員を対象とした研修も行う。	「豊かな心」の項目で肯定的回答85%以上	学校評価アンケート(生徒用)	1月	○	○	全学年で、学年教員団による道徳授業を行い、いつでも授業参観ができる環境をつくっている。また、10月の授業参観で公開授業を実施した。	
	いじめ防止の取組	●★月1回、教員がいじめ防止対策基本方針を確認する日を設定し、児童生徒に啓発を行う。 ●すべての学年でいじめ防止に関しての道徳授業を行い、いじめ防止を啓発する。	「いじめを許さない」の項目で肯定的回答100% 「いじめを許さない」肯定回答は95%程度になっている。	心のアンケート(生徒用)	5・10・2月	△	○	外部講師を招き、ネットいじめ防止を目的とした講演会を行った。ここまでの心のアンケートでは「いじめを許さない」肯定回答は95%程度になっている。		
	健やかな体	健全な生活習慣の定着	★はつらつカードで自らの生活を振り返り、基本的な生活習慣を定着させる。 ・食育を通して健全な食生活に関する知識を身につけ、マナーを養う。	「ゲーム・スマホ」の項目で使用時間を1日2時間以内	堺市児童生徒学習生活状況調査	1月	○	○	児童生徒・保護者を対象とした講演会を行った。ゲーム・スマホの使用について、学園だよりやいじめ防止だより等を通して家庭でも注意を呼びかけている。	
小中一貫	小中一貫教育	小中一貫校としての学びと育ちの連続性ある9年間の系統的な指導体制の確立	★小中の教員が互いの専門性を学び合うことで授業力を高め、9年間の系統的な指導体制を確立する。 ・小中一貫校の特性をいかして、全職員が共通の教育理念で教育活動にあたる。	学園会議・学園研修の計画的な運営・実施 学校評価アンケートの「一貫教育」項目で肯定的回答95%以上	学校評価アンケート(教職員・保護者用)	1月	○	○	教員用学校評価アンケートにおいて、「小中間の連携がうまくとれている」で肯定的回答が100%、「小中の教員が互いの専門性を生かして、学園の児童生徒に教科指導・生活指導・部活動などを行っている」で肯定的回答が91.9%だった。この結果から、概ね主観的にも客観的にも小中の連携が取れていると思われる。保護者アンケートの回答が判断基準をやや下回っているため、生活指導や部活動、小中合同の行事など保護者に認識してもらいやすい部分での連携をより活性化していく必要があると考えられる。	

<p>校長より(年度末)</p> <p>「大泉スタンダード」の取組や思考力の育成を軸とした指導方法により、生徒の学力向上に成果が出ている。また、ICTの活用を意識した学習により、ICTの技能が向上してきている。 今後も、小中一貫校の良さを生かし、生徒の総合的な学力や主体的に取り組む力を育てていく。</p>	<p>学校関係者・評価者から(年度末)</p> <p>・9・8・7年生と授業を参観しました。静謐な印象を受けましたが、とりわけ9年生は生徒が2人で、3人で、1人で…と学習している姿に感銘を受けました。(それぞれが課題をもって。友だちに教えている。教えてもらっている。)</p> <p>・小中の先生方の垣根がなく、元気に子どもの前に立たれていることが嬉しいです。先生方、生徒、保護者みんなで創る学校に近づいていってください。</p>
---	---

